

厚生労働科学研究費補助金
障害保健福祉総合研究事業

高次脳機能障害者に対する医療・福祉・就労支援に
おける人材育成に関する研究

平成19年度 総括・分担研究報告書

主任研究者 江藤 文夫
平成20（2008）年 4月

目 次

I. 総括研究報告	
高次脳機能障害者に対する医療・福祉・就労支援における人材育成に関する研究-----	1
江藤 文夫	
II. 分担研究報告	
1. 高次脳機能障害者支援体制の整備のための教材作成と普及啓発方法に関する研究--	5
中島 八十一	
2. 研修会プログラム作成、運営・指導に関する研究 -----	10
深津 玲子	
3. 高次脳機能障害者の社会復帰・生活・介護支援に資する人材育成に関する研究 --	14
寺島 彰	
4. 高次脳機能障害者の社会復帰・生活・介護支援に資する人材育成に関する研究 --	16
藤井 俊勝	
III. 研究成果の刊行に関する一覧表 -----	18
IV. 研究成果の刊行物・別刷 -----	19

厚生労働科学研究費補助金（障害保健福祉総合研究事業）

総括研究報告書

高次脳機能障害者に対する医療・福祉・就労支援における人材育成に関する研究

主任研究者 江藤 文夫 国立身体障害者リハビリテーションセンター

更生訓練所長

研究要旨

高次脳機能障害者に対し、医療から就労まで連携した支援体制を築くために、高次脳機能障害について専門的な知識と技能を有する人材を育成することを目的とし、研修教材およびプログラムを作成するとともに、情報媒体の整備や研修会等の企画を試みた。今後、受講者の要望や制度の改定等を反映した、さらなる人材育成方法の開発が課題である。

分担研究者

中島八十一

国立身体障害者リハビリテーションセンター研究所

感覚機能系障害研究部長

深津玲子

国立身体障害者リハビリテーションセンター病院

医療相談開発部長

寺島 彰

浦和大学総合福祉学部教授

藤井俊勝

東北大学大学院医学系研究科 准教授

A. 研究目的

平成13年度より5年間、高次脳機能障害支援モデル事業が全国12箇所の地方拠点病院等と国立身体障害者リハビリテーションセンターが参加して実施され、高次脳機能障害の医療・福祉に関わる専門家の理解を深め、国民一般の関心を喚起することに寄与し、モデル事業の成果として一定の評価が得られた。その後、障害者自立支援法が施行され、高次脳機能障害者のための医療、福祉、就労支援体制の整備は、一般施策化への段階を迎えた。すなわち、地域生活支援事業において高次脳機能障害支援普及事業が位置づけられる。

しかし、リハビリの各場面において、サービス提供に資する人材は極めて不足し、普及事業に関連して、この領域での人材養成が急務と考えられる。そこで本研究では、医療から就労までの連続した支援体制を築くために、全国的に高次脳機能障害について専門的な知識と技能を有する人材の育成を目指して、情報媒体や研修会等の企画を通じて、人材育成を図るとともに、その方法の有用性の検証を目的とした。

また、あわせてモデル事業からの継続として、一貫したリハビリシステムのモデル作成にも取り組むこととした。

B. 研究方法

1. 方法① どのような人材が必要か

リハビリに関わる専門職について、我が国では資格制度がいくつか確立され、近年は大学や専修学校などでの養成が普及してきた。しかし、医療から地域での生活や就労にいたる過程は、その個人にとっては連続したものであり、それを支援するサービスは広域にわたり、各専門職の境界をいかに埋めるかが課題となる。高次脳機能障害のリハビリに関わる職種の例としては、医療施設だけでなく、福祉施設、地域でのホームヘルプサービス、障害者職

業センターなどにおいて、それぞれ専門職が関わる。これら多数の専門職がチームとして有効に機能するためには、共通言語と共通の知識と共通の道具が必要である。

2. 方法② 知識・共通言語の形成の方法

共通言語、知識、ツールの形成方法としては、教材の開発と配布、職種に応じた研修と実習を実施するとともに、支援サービスの提供場面に応じた評価スケールを選択し、さらに研修の効果に関わるデータの収集と解析を行うことが必要である。こうした研修を通じて多職種チームのメンバーに共通する言語やツールを確立することが期待される。

3. 方法③ ワークショップの開催

新しい領域での専門技術の普及は、草の根的な実践活動のなかで得られた有功事例の情報交換と追体験が有用と考えられる。そこで、ワークショップを志向した研修会を企画し、そのためのテキストを作成し、共通言語として討議を円滑にする基盤を構築し、参加者によるそれぞれの地域における研修会企画の普及が研究の帰結として期待される。試行的な第1回のワークショップでの反響から、こうした研修会の

ニーズが確認され、参加希望者の増加が見込まれたことから、ワークショップとしては参加者数が過多となることが懸念されるが、120名程度が参加できる会場での実施に変更した。各回において、高次脳機能障害の多彩な問題の中でも頻度が大で、取り扱いが困難な障害をテーマとして、専門家による講義と事例検討を企画した。各回のテーマと、参加者数を示す。

表1. ワークショップ開催日時・テーマ・参加人数

第1回 平成19年 3月10日	
記憶障害へのアプローチ	40名
第2回 平成19年 7月 7日	
注意障害へのアプローチ	150名
第3回 平成19年11月10日	
遂行機能障害へのアプローチ	130名
第4回 平成20年 3月 1日	
社会的行動障害へのアプローチ	140名

C. 研究結果

1. 結果① 研修会参加者の職種

研修会参加者の専門性に関しては作業療法士が約3分の2を占め、市町村行政担当者、社会福祉士、心理士、の順であった。

2. 結果② 手引きの配布状況

平成13年度からの高次脳機能障害支援モデル事業での成果に基づき、支援の手引を作成し、各地で開催される研修会や勉強会の資料として希望される方々に配布した。

高次脳機能障害という用語は学術的には精神障害と重複する部分が大であり、医療や福祉の施策の対象とするためには、診療面で妥当な診断基準を設定する必要があるモデル事業において認識された。手引書にはこうした診断基準のガイドライン、標準的訓練プログラム、標準的支援プログラムなどを含めた。

3. 結果③ 手引き利用しての研修会の実施状況

高次脳機能障害者支援のためのテキストの請求に基づき配布した研修会開催の実施状況を示す。本年度の各地における研修会の開催は昨年に対し現在までに約2倍に増加している。これらのうち38%は、本研究におけるワークショップ参加者が主催に関与して開催されたものである。

表2. 外部研修会実施件数と手引き配布部数

平成18年度	37件	3,659部
平成19年度	77件	9,350部

4. 結果④ 研修会の実施主体

各地での研修会の実施主体は、県や市の障害福祉課など行政機関が66%を占め、病院などの医療機関や教育・研究機関のほか、各地での学会や研究会での開催も含まれた。

5. 結果⑤ 高次脳機能障害支援拠点機関の設置状況

障害者自立支援法での地域生活支援事業として各都道府県の高次脳機能障害支援普及事業は位置付けられ、高次脳機能障害についての地方支援拠点機関の設置が望まれる。平成18年4月の時点では、こうした高次脳機能障害支援拠点機関はモデル事業を引き継いで、13か所で設置されたが、今年の1月現在で26都道府県・政令指定都市に37の支援拠点機関が設置された。このことから、政策的に平成24年度までに全都道府県で支援拠点機関を設置することが目標として定められた。

D. 考察・結論

今後の課題と3年目の計画

人材育成の実験的事業の成果は期間を経て長期的に検証される側面が大であるが、本研究では、共通言語として作成したテキスト教材の配布数が、初

年度は3,659部で、本年度は9,350部であった。また各地での研修会開催状況、支援拠点機関の設置状況を含めて短期的には中央でのワークショップ開催を人材育成の方法とすることで目的は達成されつつあると考える。今後の課題として、各地域での人材育成の基盤を強化するために、チームアプローチの核となる支援拠点機関に所属する支援コーディネーターを対象に研修会を企画すること、この実験的事業におけるワークショップや研修会の成果として手引書の改訂を図り、可能であれば海外における高次脳機能障害支援システムの現状を視察することを含めた情報収集により本研究結果を検証したい。

F. 研究発表

・高次脳機能障害支援普及事業のサイト
http://www.rehab.go.jp/ri/brain_fukyu/index.shtml

G. 健康危険情報 なし

H. 知的財産権の出願・登録状況 なし

厚生労働科学研究費補助金（障害保健福祉総合研究事業）

分担研究報告書

高次脳機能障害者支援体制の整備のための教材作成と普及啓発方法に関する研究
分担研究者 中島 八十一 国立身体障害者リハビリテーションセンター研究所
感覚機能系障害研究部長

研究要旨

高次脳機能障害支援普及事業の開始に伴い、全国の地域ブロック、都道府県、および市町村における医療・福祉専門職・行政職等を対象とした研修会・講習会等の開催に応じ、教材を作成し配布した。今後も新たな質問事項を整理し、また、障害者自立支援法の施行に伴い、教材内容を適宜改訂し、さらなる普及啓発の方法を考えたい。

A. 研究目的

平成18年度より引き続き、高次脳機能障害者支援体制整備・普及を目的とし、全国の地域ブロック、都道府県、および市町村において、医療・福祉専門職・行政職等を対象とした研修会・講習会等が開催されている。

本研究では、それらの情報提供・収集交換の機会において、高次脳機能障害支援モデル事業で構築された、医療・福祉の連携に基づく包括的リハビリテーションの実践的な方法論を、複数の職種に分かりやすく説明するために、適切な教材を開発し、配布を促進し、普及啓発することを目的とした。

B. 研究方法

前年度に引き続き、全国の地域ブロック、都道府県、および市町村における医療・福祉専門職・行政職等を対象とした高次脳機能障害者支援研修会・講習会等の開催に応じ、教材を作成し、配布した。また、世界保健機関と協同で英語版教材を刊行した。

C. 研究結果

平成19年度中に開催された、高次脳機能障害者支援研修会・講習会等の詳細および、教材の配布状況を表1に示した。

研修会・講習会総数は77件、教材（高次脳機能障害者支援の手引き）、

合計9,350部を配布した。

D. 考察・結論

高次脳機能障害支援普及事業の開始に伴い、全国各地で、さまざまな規模の研修会・講習会が開催されている。筆者は、都道府県ならびに支援拠点機関等の関係者、専門職員、学識経験者等で構成される連絡調整の場である地方拠点支援機関等全国連絡協議会、および各ブロック会議において、研修会・講習会の開催を促進するとともに、作成した教材の使用を提案・配布した。今後も新たな質問事項を整理し、また、障害者自立支援法の施行に伴い、教材内容を適宜改訂し、さらなる普及啓発の方法を考えたい。

F. 研究発表

1. 論文発表

- ・ 中島八十一：認知症と高次脳機能障害
Clinical Neuroscience 25 (2) 220-221、2007
- ・ 中島八十一：高次脳機能障害への支援
地域リハビリテーション 2 (1) 21-24、2007
- ・ 中島八十一：高次脳機能障害診断基準
Japanese Journal of Rehabilitation Medicine 44 (10) 565-568、2007
- ・ 中島八十一：高次脳機能障害支援のこ

れまでと今後 脳神経外科ジャーナル
16 (12) 936-942、2007

- ・ 中島八十一：高次脳機能障害と医療・福祉
日本医事新報 No.4365 53-59、2007
- ・ 今橋久美子、中島八十一：モデル事業で高次脳機能障害へのアプローチはこう変わる。
臨床リハ 16 (1) 10-16、2007

2. 学会発表

- ・ 中島 八十一，深津玲子，藤井俊勝.
高次脳機能障害に対する長期的追跡調査に関する研究. 第44回日本リハ医学会. 神戸，2007-06-06/06-08.
- ・ 深津玲子，藤井俊勝，中島 八十一.
前交通動脈動脈瘤破裂によるくも膜下出血後遺症として重度の記憶障害を有しながら主婦として家庭復帰した例. 第44回日本リハ医学会. 神戸，2007-06-06/06-08.

3. 講演等

- ・ 中島八十一「高次脳機能障害者支援のための診断・評価について」
岩手高次脳機能障害研究会 平成19年5月24日 盛岡
- ・ 中島八十一 「高次脳機能障害診断基準」
日本リハビリテーション医学会学術総会 平成19年6月7日 神戸
- ・ 中島八十一 「高次脳機能障害の診

- 断と治療」京都府高次脳機能障害支援医療関係者研修会 平成19年7月13日 京都
- ・ 中島八十一 「高次脳機能障害支援普及事業の現在」高次脳機能障害支援普及事業九州・沖縄ブロック連絡協議会 平成19年7月20日 福岡
 - ・ 中島八十一 「高次脳機能障害の診断基準ガイドラインについて」静岡県高次脳機能障害相談支援従事者専門研修会 平成19年9月22日 静岡
 - ・ 中島八十一 「高次脳機能障害者の支援について」宮崎県第2回高次脳機能障害研修会 平成19年10月22日 宮崎
 - ・ 中島八十一 「相談支援に必要な高次脳機能障害の医学的知識について」鳥取県医療社会事業協会研修会 平成19年10月28日 倉吉
 - ・ 中島八十一 「高次脳機能障害診断基準および連続したケアの必要性について」福岡県高次脳機能障害支援事業 医師等医療関係者研修会 平成19年10月31日 福岡
 - ・ 中島八十一 「高次脳機能障害支援モデル事業から支援普及事業へ」平成19年度大阪府高次脳機能障害支援普及事業市町村保健所職員研修会 平成19年11月7日 大阪
 - ・ 中島八十一 「高次脳障害支援のこれまでとこれから」長野県高次脳機能障害研修会 平成19年11月10日 佐久
 - ・ 中島八十一 「高次脳障害者への支援：医療から福祉へ連続したケア」第7回鹿児島高次脳機能障害研修会 平成19年12月2日 鹿児島
 - ・ 中島八十一 「高次脳機能障害診断基準および連続したケアの必要性について」第1回茨城高次脳機能障害SW.Net講演会 平成19年12月9日 茨城・阿見
- G. 健康危険情報 なし
- H. 知的財産権の出願・登録状況
なし

表1. 高次脳機能障害者支援研修会の開催および手引き配布状況

開催日時	研修会・講習会 名称	開催団体・責任者	配布部数
平成19年4月10日	高次脳機能障害者への援助について	吹田市役所障害福祉課	30
平成19年5月11日	高次脳機能障害の診断とリハビリテーション	多摩高次脳機能障害研究会	150
平成19年5月24日	見えない障害を理解するために(第2回岩手県高次脳機能障害研究会)	岩手県高次脳機能障害研究会	50
平成19年6月6日	第44回日本リハビリテーション医学会	第44回日本リハビリテーション医学会運営本部	100
平成19年6月16日	平成19年度高次脳機能障害支援研修会	岩国健康福祉センター健康増進課	150
平成19年7月3日	高次脳機能障害勉強会(大学院授業)	順天堂大学大学院 長岡正範	20
平成19年7月12日 平成19年7月18日 平成19年7月27日 平成19年8月3日	①高次脳機能障害者への就労支援 ②高次脳機能障害者相談支援体制連携調整委員会 ③北多摩南部高次脳機能障害者支援ネットワーク連絡会 ④ //	東京都心身障害者福祉センター	300
平成19年7月13日	高次脳機能障害支援医療関係者研修会	京都府保健福祉部福祉総括室障害者支	250
平成19年7月14日	紀和病院リハビリテーション部院内研修	紀和病院リハビリテーション部	20
平成19年7月21日	三重県高次脳機能障害講演&シンポジウム	三重県高次脳機能障害相談支援体制連携調整委員会	200
平成19年7月21日	高次脳機能障害専門セミナー(中信地域)	長野県高次脳機能障害者リハビリテーション講習会実行委員会	200
平成19年7月22日	京都府言語聴覚士会講演会	京都府言語聴覚士会	150
平成19年7月23日	岡山県高次脳機能障害者支援普及事業平成19年度第1回相談支援体制連携調整	岡山県高次脳機能障害支援普及事業	30
平成19年7月29日	保険所対応マニュアル検討会	長崎こども・女性・障害者支援センター	50
平成19年7月31日	島根県立中央病院院内研修	島根県立中央病院リハビリテーション技	30
平成19年7月31日	高次脳機能障害者支援体制検討委員会	奈良県福祉部障害福祉課	22
平成19年8月6日	高次脳機能障害についての研修会	滋賀県立むれやま荘内 高次脳機能障害支援センター	100
平成19年8月17日	8月法人内職員研修会	京都身体障害者福祉センター 京都市中部障害者地域生活支援センター「らくなん」	50
平成19年8月26日	第13回高次脳機能障害者地域支援セミ	三重県身体障害者総合福祉センター	150
平成19年9月1日	高次脳機能障害者支援勉強会	都立大塚病院リハビリテーション科	30
平成19年9月1日	島根県作業療法士会地区研修会	島根県作業療法士会	20
平成19年9月4日	愛知県平成19年度身体障害者相談員研修(岡崎市)	愛知県社会福祉協議会	150
平成19年9月6日	愛知県平成19年度身体障害者相談員研修(名古屋市)	愛知県社会福祉協議会	150
平成19年9月7日	高次脳機能障害支援従事者研修	新潟県精神保健福祉センター	80
平成19年9月12日	平成19年度高次脳機能障害者支援事業関係職員研修会(徳島県)	徳島県精神保健福祉センター	300
平成19年9月20日	西東京警察病院回復期病棟リハビリテーション部勉強会	西東京警察病院	25
平成19年9月22日	高次脳機能障害専門支援従事者研修会	静岡県健康福祉部障害者支援総室精神保健福祉室	100
平成19年9月27日	補助器具センター研修会	武蔵野市福祉公社武蔵野市高齢者総合センター補助器具センター	150
平成19年10月6日	岡山県高次脳機能障害者支援普及事業平成19年度第1回地域リハ広域支援セン	岡山県高次脳機能障害支援普及事業	100
平成19年10月11日	高次脳機能障害支援事業福祉施設関係者対象研修会		200
平成19年10月31日	高次脳機能障害支援事業医療関係者対象研修会	福岡県保健福祉部障害者福祉課	300
平成19年11月2日	高次脳機能障害支援事業行政関係者対象研修会		200
平成19年10月13日	福井県高次脳機能障害者交流会	福井県健康福祉部障害福祉課	200
平成19年10月20日	平成19年度大阪府高次脳機能障害支援普及事業「高次脳機能障害」医療機関等職員研修会(I)	大阪府障害者自立相談支援センター	300
平成19年10月20日 平成19年11月10日	高次脳機能障害研修会(南信地域) 高次脳機能障害研修会(東信地域)	長野県高次脳機能障害者リハビリテーション講習会実行委員会	250

平成19年10月22日	高次脳機能障害者支援研修会	宮崎県身体障害者相談センター	60
平成19年10月28日	鳥取県高次脳機能障害普及啓発事業 相談支援専門研修	鳥取県医療社会事業協会	200
平成19年11月7日	「高次脳機能障害」市町村関係職員等研修会(1)	大阪府障害者自立相談支援センター	300
平成19年11月10日	山口PSW勉強会	山口PSW勉強会	20
平成19年11月10日	第2回高次脳機能障害講演会	富山県高次脳機能障害支援センター	200
平成19年11月11日	山口県作業療法学会		120
平成19年11月20日	高次脳機能障害支援 行政・福祉関係斜塔研修会	京都府保健福祉部福祉総括室障害者支援室	300
平成19年11月27日	高次脳機能障害者支援研修会	島根県障害者福祉課	110
平成19年11月29日	高次脳機能障害者支援推進委員会	鹿児島大学医学部保健学科	100
平成19年11月30日	相談支援事業所、障害者就業・生活支援センター等相談機関 高次脳機能障害研第1回茨城高次脳機能障害SWNet講演会	大阪府障害者自立相談支援センター	200
平成19年12月9日	「高次脳機能障害診断基準および連続したケアの必要性について」	茨城高次脳機能障害SWNet	200
平成19年12月9日	高次脳機能障害支援センター相談支援体制連携調整会議	富山県高次脳機能障害支援センター	24
平成19年12月13日	平成19年度高次脳機能障害勉強会	吉野川保険所	50
平成19年12月18日	飯田橋STの会 高次脳機能障害者の支援者支援施設・サービス事業所等研修	済生会神奈川県病院リハセンター	18
平成19年12月18日	奈良障害者職業センター職員研修	大阪府障害者自立相談支援センター	150
平成19年12月20日	高次脳機能障害の講演会(徳島県)	奈良障害者職業センター	10
平成19年12月20日	高次脳機能障害研修会(相談機関向け)	徳島県南部総合県民局保健福祉環境部	100
平成19年12月20日	高次脳機能障害研修会(相談機関向け)	滋賀県立むれやま荘内 高次脳機能障害支援センター	80
平成20年1月12日	「高次脳機能障害」当事者・家族等研修会	大阪府障害者自立相談支援センター	300
平成20年1月17日	京都市身体障害者リハビリテーション関係職員研修「高次脳機能障害を知る」	京都市身体障害者リハビリテーションセンター相談課	100
平成20年1月19日	第1回高次脳機能障害研修会	富山県高次脳機能障害支援センター	46
平成20年1月19日 平成20年1月20日	平成19年度滋賀県立リハビリテーションセンター高次脳機能障害研修会「高次脳機能障害の方の支援をつなぐ～高次脳機能障害者の地域生活を支えるために～」	滋賀県立リハビリテーションセンター	100
平成20年1月20日	第46回日本医師会生涯教育講座	長崎県医師会	150
平成20年1月23日	平成19年度市町障害者福祉担当職員専門研修会	長崎県長崎こども・女性・障害者支援センター障害者支援部更生相談課	50
平成20年1月23日	講演会「高次脳機能障害の理解と支援の充実のために」(徳島県)	徳島保健所精神保健係	200
平成20年1月25日	高次脳機能障害に係る研修会	鳥取県西部総合事務所福祉保健局	80
平成20年1月26日	平成20年岐阜高次脳機能障害フォーラム	岐阜脳リハビリテーション講習会実行委	60
平成20年1月27日	高次脳機能障害講演会「当事者・家族と一緒に学び広げよう高次脳機能障害支援「高次脳機能障害」医療機関等職員研修会(Ⅱ)」	徳島大学脳神経外科	150
平成20年1月27日	高次脳機能障害専門支援従事者向け	大阪府障害者自立相談支援センター	180
平成20年1月28日	市町村高次脳機能障害者支援担当者研修会	静岡県厚生部障害者支援局精神保健福祉課	95
平成20年1月29日	「高次脳機能障害」市町村保健所等職員研修会(Ⅱ)	茨城県立リハビリテーションセンター	80
平成20年2月15日	平成19年度高次脳機能障害支援対策事業研修会	大阪府障害者自立相談支援センター	150
平成20年2月16日	病院職員高次脳機能障害者支援担当者研修会	岐阜県医師会	150
平成20年2月26日	施設内研修	茨城県立リハビリテーションセンター	80
平成20年2月27日	山口障害者職業リハビリテーション研修会・例会	介護老人保健施設しまた川苑	30
平成20年3月1日	山口障害者職業リハビリテーション研修会	山口障害者職業リハビリテーション研修会	50
平成20年3月8日	平成19年度高次脳機能障害地域支援ネットワーク中国ブロック研修会	高次脳機能障害地域支援ネットワーク中国ブロック協議会	200
平成20年3月23日	平成19年度高次脳機能障害支援研修	山口県身体障害者福祉センター	250

厚生労働科学研究費補助金（障害保健福祉総合研究事業）

分担研究報告書

研修会プログラム作成、運営・指導に関する研究

分担研究者 深津 玲子 国立身体障害者リハビリテーションセンター病院
医療相談開発部長

研究要旨

高次脳機能障害支援普及事業に携わる各自治体における専門職の人材育成を目的に研修会プログラム作成、運営・指導を行った。研修会は高次脳機能障害の主症状である「記憶障害」「注意障害」「遂行機能障害」「社会的行動障害」について各々研修会の形式で開催し、①各テーマについて現在我が国における気鋭の研究者の講演、②各テーマについて高次脳機能障害支援の先進的地域で活躍する専門職（医療、福祉関係者）による事例報告およびそのディスカッションを行った。参加者は医療・福祉の領域で作業療法士が約3分の2を占め、次いで市町村行政担当者、社会福祉士、心理士が多かった。

今後、研修対象者を地域で研修会を開催する者と明確にし、研修会内容の標準的プログラムを確立し、研修会マニュアルを作成することが必要と考えられる。また事例検討会は患者情報保護に留意が必要であるが、医療・福祉の現場で働く専門職が高次脳機能障害への理解を深めるためには重要な研修形態の一つであると考えられる。

A. 研究目的

高次脳機能障害支援普及事業は自立支援法のもと各自治体にて支援体制の整備が進められることとなった。全国で高次脳機能障害者の支援が円滑に行われるためには、医療・福祉の領域で高次脳機能障害について専門知識を有する人材の育成が急務である。各自治

体において研修会等を通じ人材育成を行う際の研修会のあり方の提示、また研修会を企画・運営する地域のリーダーとなるべき人材を育成することがこの分担研究の目的である。今年度は高次脳機能障害の主症状である「注意障害」「遂行機能障害」「社会的行動障害」について研修会を開催し、各テ

マの専門家による講演、現場専門職による事例報告および検討会を行った。

B. 研究方法

1. 講師による専門職研修

高次脳機能障害の主症状である「記憶障害」「注意障害」「遂行機能障害」「社会的行動障害」についてそれぞれ講師を招き研修会を開催した。記憶障害については昨年度行い、今年度は残り3症状について行った。今年度開催した講師による専門職研修を

表1に示す。講師には各テーマについて現在最も活発に研究活動を行い、かつ豊富な臨床経験を持つ講師を選んだ。講演内容として、症状、検査、対応についての正確な知識を研修できるよう配慮した。特に用語の定義、分類について、研究者、医療の臨床現場に従事するもの、福祉の現場で従事するものすべてが共通した知識を共有するべく、整理して学べるよう提示した。

表1 研修会テーマと講師

テーマ	講師
注意障害	東海大学医学部リハビリテーション科准教授 豊倉穰
遂行機能障害	東北大学大学院医学系研究科高次脳機能障害准教授 藤井俊勝
社会的行動障害	慶応大学医学部精神神経科准教授 村松太郎

2. 専門職による事例報告

高次脳機能障害の主症状である「記憶障害」「注意障害」「遂行機能障害」「社会的行動障害」について、高次脳機能障害支援拠点機関の専門職が事例提示を行い、参加者である各地域の専門職および各テーマの専門家である講師とディスカッションした。事例報告者は医療機関（病院）、更生訓練施設、福祉施設に所属する専門職である。報告事例は各テーマの症状をもち、その症状が取り組みの中心となった事例とした。それぞれ検査・評価、具体的な問題点の抽出、対応について発表し、他の参加者とのディスカッションを行った。記憶障害については昨年度行い、今年度は残り3症状について行った。今年度開催した専門職による事例報告を表2に示す。

表2 テーマと事例報告者

テーマ	事例報告者
注意障害	<ul style="list-style-type: none"> 国立身体障害者リハビリテーションセンター更生訓練所 職能部指導員 若林耕司 東北厚生年金病院 言語聴覚士 目黒祐子
遂行機能障害	<ul style="list-style-type: none"> 東京都心身障害者福祉センター自立支援課 作業療法士 村松瑞美 広島県身体障害者リハビリテーションセンター 作業療法士 小倉由紀
社会的行動障害	<ul style="list-style-type: none"> クラブハウスすてっぷなな 作業療法士 野々垣睦美 福岡市立心身障害福祉センタ

	ー 支援コーディネーター (理学療法士) 和田明美
--	------------------------------

①症状と損傷部位の確認、②各症状の検査・評価法、③対策を立てる上での問題点の整理方法であった。

C. 研究結果

1. 講師による専門職研修講師による専門職研修

高次脳機能障害の主症状である「記憶障害」「注意障害」「遂行機能障害」「社会的行動障害」について、医療・福祉専門職を対象にワークショップを行った。各回のテーマと参加人数を表3に示す。

表3. ワークショップ開催日時・テーマ・参加人数

第1回 平成19年 3月10日	
記憶障害へのアプローチ	40名
第2回 平成19年 7月 7日	
注意障害へのアプローチ	150名
第3回 平成19年11月10日	
遂行機能障害へのアプローチ	130名
第4回 平成20年 3月 1日	
社会的行動障害へのアプローチ	140名

2. 専門職による事例提示

表2に示したように、高次脳機能障害支援拠点機関において、高次脳機能障害者の支援を行っている作業療法士、理学療法士、言語聴覚士が事例を報告し、討論を行った。討論内容は、

D. 考察・結論

昨年度、今年度で開催した4回のワークショップで、高次脳機能障害の主症状である「記憶障害」「注意障害」「遂行機能障害」「社会的行動障害」について、症状・用語の正確な定義が整理された。最新の評価・検査、適切な対応等について質疑応答があり、手引きの更新に反映させる必要が生じた。

今後は研修対象者(研修に参加する者)を「地域で高次脳機能障害支援に関わる研修会を開催する者」と明確にし、研修会内容の標準的プログラムを確立し、研修会マニュアルを作成することが必要と考えられる。また事例検討会は患者情報保護に留意が必要であるが、医療・福祉の現場で働く専門職が高次脳機能障害への理解を深めるためには重要な研修形態の一つであると考えられる。

F. 研究発表

1. 論文発表

- ・ 深津玲子, 藤井俊勝: 遂行機能障害の画像診断. Journal of Clinical Rehabilitation 2008;

17: 26-31.

2. 学会発表

- ・ 深津玲子, 藤井俊勝, 中島 八十一. 前交通動脈動脈瘤破裂によるくも膜下出血後遺症として重度の記憶障害を有しながら主婦として家庭復帰した例. 第44回日本リハ医学会. 神戸, 2007-06-06/06-08.
- ・ 中島 八十一, 深津玲子, 藤井俊勝. 高次脳機能障害に対する長期的追跡調査に関する研究. 第44回日本リハ医学会. 神戸, 2007-06-06/06-08.

3. 講演等

- ・ 深津玲子. 外傷性脳損傷のリハビリテーション. 平成19年度リハビリテーション心理職研修会(基礎). 国立身体障害者リハビリテーションセンター, 所沢, 2007-05-23.
- ・ 深津玲子. 認知障害に対する神経心理学的検査. 平成19年度高次脳機能障害支援事業関連職員研修会. 国立身体障害者リハビリテーションセンター, 所沢, 2007-07-05.
- ・ 深津玲子. 画像と神経心理学. 平成19年度リハビリテーション心理

職研修会(応用). 国立身体障害者リハビリテーションセンター, 所沢, 2007-09-11.

- ・ 深津玲子. 目に見えない障害とともに生きる-高次脳機能障害・失語症について-. 東邦大学医学部看護学科 第6回市民公開講座. 東邦大学医療センター大森病院, 東京, 2007-09-29.
- ・ 深津玲子. 高次脳機能障害とリハビリテーション. 第一回 福井県高次脳機能障害者交流会. 福井県立病院, 福井, 2007-10-13.
- ・ 深津玲子. 高次脳機能障害の評価. 平成19年第2回 高次脳機能障害支援従事者研修. 新潟県精神保健福祉センター, 新潟, 2007-12-21.

G. 健康危険情報 なし

H. 知的財産権の出願・登録状況
なし

厚生労働科学研究費補助金（障害保健福祉総合研究事業）

分担研究報告書

高次脳機能障害者の社会復帰・生活・介護支援に資する人材育成に関する研究

分担研究者 寺島 彰 浦和大学総合福祉学部教授

研究要旨

高次脳機能障害者の社会復帰・生活・介護支援に資する支援コーディネーターを対象に、実践的な支援方法を整理・分かりやすく例示し、重症度や障害特性に応じた社会復帰・生活・介護支援に資する人材育成を目的とした講義を行った。特に障害者自立支援法の概要と施行後の変更点、および高次脳機能障害者支援の位置づけについて整理した。

A. 研究目的

平成18年度より引き続き、高次脳機能障害者支援体制整備・普及の一環として、各自治体において、地方支援拠点（支援センター）の設置と支援コーディネーターの配置が進められている。各地域の裁量に基づいて、社会資源を有効に活用することにより、さまざまなサービスのあり方が可能になるが、一方では、新規事業の着手に際し、先行地域における実践例を参考にしたいとの要望や共通する質問が寄せられている。

本研究では、実践的な支援方法を整理・分かりやすく例示し、重症度や障害特性に応じた社会復帰・生活・介護

支援に資する人材育成を目的とした講義を行った。

B. 研究方法

障害者自立支援法の概要と施行後の変更点、および高次脳機能障害者支援の位置づけについて質問の多い点を整理し解説した。

C. 研究結果

平成19年7月に国立身体障害者リハビリテーションセンターにて開催された高次脳機能障害支援事業関連職員研修会、および11月に東京丸の内にて開催された高次脳機能障害者支援のためのワークショップ 第3回において講

義を行った。

講義内容は、障害者ソーシャルワークにおけるケアマネジメントの位置づけ、障害者ケアマネジメント、障害者自立支援法におけるケアマネジメントのプロセス、地域生活支援事業、市町村・都道府県の役割について、地域生活支援事業における相談支援事業、自立支援法施行後の支援等を網羅した。

D. 考察・結論

平成18年度に施行された障害者自立支援法の2本の柱は、自立支援給付と地域生活支援事業であり、いずれも市町村の業務として位置付けられているが、地域生活支援事業のうち専門性が高い相談支援事業については都道府県の業務に位置付けられ、高次脳機能障害支援普及事業も含まれる。本研究では、施行に伴い新たに生じた変更点や具体的な問題点を整理したが、実際の現場では移行に時間を要するため、引き続き質問事項を集積して情報を提供する必要がある。

F. 健康危険情報

特になし。

G. 研究発表

1. 講演等

- ・ 寺島 彰. 生活復帰・介護支援の実際ーケアマネジメントを中心にー. 平成19年度高次脳機能障害支援事業関連職員研修会. 国立身体障害者リハビリテーションセンター, 所沢, 2007-07-06.
- ・ 寺島 彰: 高次脳機能障害者の生活支援ーケアマネジメントを中心にー. 高次機能障害者支援のためのワークショップ 第3回ー遂行機能障害へのアプローチー, 東京, 2007-11-10.

H. 知的財産権の出願・登録状況 なし

分担研究報告書

高次脳機能障害者に対する医療・福祉・就労支援における人材育成に関する研究

分担研究者 藤井 俊勝 東北大学大学院医学系研究科 准教授

研究要旨

高次脳機能障害の中でも最もわかりにくい遂行機能障害の定義・捉え方などについての講義を医療・更生援護・就労支援・雇用の現場関係者に行った。

A. 研究目的

高次脳機能障害の中でも最も捉えにくい症状は遂行機能障害である。当研究の目的は、遂行機能障害 — この症状は特に前頭葉損傷と関連が深いと考えられている — の定義や実際の臨床レベルでの捉え方などについて医療・更生援護・就労支援・雇用の現場関係者にわかりやすく講義し、理解を深めてもらうことである。

B. 研究方法

医療・更生援護・就労支援・雇用の現場関係者を対象とし、遂行機能障害の定義や捉え方、的確に診断するための方法や課題について講義を行った。また、遂行機能障害を呈する患者の画像所見についても解説した。

C. 研究結果

遂行機能障害についての知識の普及に役立った。

D. 考察

高次脳機能障害の中でも最も捉えにくい症状は遂行機能障害であるが、それはさまざまな別の定義や捉え方があるためである。また、主に前頭葉損傷後に見られる症状ではあるが、前頭葉の中でも症状が少しずつ異なっている。このような脳損傷と症状の関係を医療・更生援護・就労支援・雇用の現場関係者が正しく理解できるように研修を行う必要がある。

E. 結論

高次脳機能障害の中でも最もわかりにくい遂行機能障害の定義・捉え方などについての講義を医療・更生援護・就労支

援・雇用の現場関係者に行った。今後はより大規模な研修会の開催・診断のための標準的なマニュアルの作成などが人材育成に役立つと考えられる。

F. 研究発表

1. Abe N, Suzuki M, Mori E, Itoh M, Fujii T. Deceiving others: distinct neural responses of the prefrontal cortex and amygdala in simple fabrication and deception with social interactions. *Journal of Cognitive Neuroscience* 2007; 19: 287-295.
2. Okuda J, Fujii T, Ohtake H, Tsukiura T, Yamadori A, Frith CD, Burgess PW. Differential involvement of regions of rostral prefrontal cortex (Brodmann area 10) in time- and event-based prospective memory. *International Journal of Psychophysiology* 2007; 64: 233-246.
3. 深津玲子, 藤井俊勝: 遂行機能障害の画像診断. *Journal of Clinical Rehabilitation* 2008; 17: 26-31.
4. 藤井俊勝: 認知と記憶: 症例研究と

イメージング研究. 第7回生理学若手サマースクール. 東京, 2007. 8. 8.

5. 藤井俊勝: 記憶の神経基盤. 第40回日本作業療法士協会全国講習会. 山形, 2007. 10. 27.
6. 藤井俊勝: 遂行機能障害について. 高次脳機能障害者支援のためのワークショップ 第3回 - 遂行機能障害へのアプローチ, 東京, 2007. 11. 10.
7. 藤井俊勝: 神経心理学と脳機能画像法によるヒトの高次脳機能研究. 東京大学医学部基礎統合講義, 東京, 2008. 2. 8.

G. 健康危険情報 なし

H. 知的財産権の出願・登録状況
なし

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
Nakajima Y	Chapter1. Guidelines for diagnostic criteria of higher brain dysfunction Chapter2. Standard training program for higher brain dysfunction	Ushiyama T	Guide to support for persons with higher brain dysfunction I	National rehabilitation center for persons with disabilities Japan	Saitama	2006	1-42

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
中島八十一	認知症と高次脳機能障害	Clinical Neuroscience	25 (2)	220-221	2007
中島八十一	高次脳機能障害への支援	地域リハビリテーション	2 (1)	21-24	2007
中島八十一	高次脳機能障害診断基準	Japanese Journal of Rehabilitation Medicine	44 (10)	565-568	2007
中島八十一	高次脳機能障害支援のこれまでと今後	脳神経外科ジャーナル	16 (12)	936-942	2007
中島八十一	高次脳機能障害と医療・福祉	日本医事新報	No.4365	53-59	2007
今橋久美子, 中島八十一	モデル事業で高次脳機能障害へのアプローチはこう変わる	Journal of Clinical Rehabilitation	16 (1)	10-16	2007
深津玲子, 藤井俊勝	遂行機能障害の画像診断	Journal of Clinical Rehabilitation	17	29-31	2008
Abe N, Suzuki M, Mori E, Itoh M, Fujii T	Deceiving others: distinct neural responses of the prefrontal cortex and amygdala in simple fabrication and deception with social interactions	Journal of Cognitive Neuroscience	19	287-295	2007
Okuda J, Fujii T, Ohtake H, Tsukiura T, Yamadori A, Frith CD, Burgess PW	Differential involvement of regions of rostral prefrontal cortex (Brodmann area 10) in time- and event-based prospective memory	International Journal of Psychophysiology	64	233-246	2007